

メガネの松田の
大切なお客様だけに限定発行!

メガネの松田新聞

No.12 July 2011

menu

特集

3.11東日本大震災

『メガネの松田』メガネボランティア始動!

- 『メガネの松田』から復興へのメッセージ
- 野田村でのステキな出逢い 復活をとげた「まるきん大沢菓子店」さん
- メガネボランティアに参加して 盛岡市・小野寺倫代さん
- 2011年夏プレゼントクイズ ●編集部・専務の松田より ●読者VOICE
- 夏のセール開催中! ●コンタクトレンズ「安心!お試しパック」のご紹介



野田村でのメガネ支援活動。明るい屋外だったため急ぎジャンパーを暗幕代わりにして器械視力測定。

3.11東日本大震災

『メガネの松田』メガネボランティア始動!

被災地にメガネを届けよう!

3月11日の大震災後、停電から回復し、やっと点いたテレビに流れていた映像は、見た事もないような悲惨なものでした。津波で行政機能を失った沿岸市町村、情報不足、燃料不足などでなかなか届かない支援。「これは緊急の救援が必要だ!」「何か私たちにできることはないか。」私たちは、同じ岩手県民として、メガネ屋として、今こそ行動すべきと考えました。



大船渡の避難所にて。

まず、行ってみよう!

地震の影響で、直後の二日間は臨時休業となった『メガネの松田』各店でしたが、3月14日には時間短縮をしながらも、営業を再開することができました。しかし、盛岡市内でも日用品や食品、そしてガソリン不足が続く、本店のある大通からは人影が消えていました。

そんな中、メディアが伝え始めた被災地の報道で、津波で家を失い、着の身着のまま避難した方々の姿を見た時に、私たちに、もしかしたらお役に立てることがあるかもしれないと感じました。「まず、行ってみよう!」そう言い出したのは社長でした。「今年のネパール・メガネボランティア用の在庫がある。あれを持っていこう。」被災地の状況を知りたいもの、知り合いはいても電話は通じません。3月18日、県の災害対策本部が出している道路状況地図を見ながら、まずは壊滅的な被害を受けた陸

前高田市を目指しました。朝5時半出発。住田町までは国道396号にも目立った被害はなく、自衛隊や国内各地から救援に訪れている大型の緊急車両がど

前高田市を目指しました。朝5時半出発。住田町までは国道396号にも目立った被害はなく、自衛隊や国内各地から救援に訪れている大型の緊急車両がど

所の一つにたどり着きました。運営を行っている方にメガネ提供をしたいことを説明した所、すぐにOK。避難所の一面に急ごしらえの検査カウンターやメガネを並べ、避難している方々に声をかけ始めました。皆さんが避難している部屋に入ってみると、寒い。まだ雪がちらつき季節なのに、暖房は全くなし。毛布は支給されているものの、避難している方々の服装は、ダウンを着ている訳でもなく、まさに着の身着のままの様子でした。被災からこの一週間に皆さんが体験してきたことを思い、胸が締め

付けられました。準備をしていると、どんどん人が集まってきました。あつという間に長い列ができ、10時には活動を開始。何人の方にメガネを提供したか、カウントする暇もなく対応し上がついている私たちが、避難している方々が、さりげなく手伝ってくれたことも、とてもありがたいことでした。そして約100人ほどの方々にメガネを提供して、次の避難所へ向かいました。第1回のメガネ支援は、陸前高田市の3つの避難所を回り、約300本のメガネを提供。その結果、現地で起こっているいろいろな事が分かりました。メガネを失った方々が多く、寒い。まだ雪がちらつき季節なのに、暖房は全くなし。毛布は支給されているものの、避難している方々の服装は、ダウンを着ている訳でもなく、まさに着の身着のままの様子でした。被災からこの一週間に皆さんが体験してきたことを思い、胸が締め

第1回メガネボランティア開始!

岩手県のホームページに掲載されていた陸前高田市の避難

『メガネの松田』から復興へのメッセージ

この度の震災では、三陸沿岸の多くの地域が甚大な被害を受け、住宅・商店・漁港、そして多くの尊い命が失われました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。私たちは、10年ほど前からネパールの山間地へメガネを届ける「メガネ・ボランティア」の活動を行ってきました。この度の震災を受



け、すぐに思い立ったのは、このネパールでの経験を活かした三陸被災地への支援です。また、ネパールでの活動には、沿岸を含む県内のお客様からご寄付いただいております。そのご恩返しをしたいという気持ちもありました。今回のメガネ支援では、ホームページなどでフレーム提供のお願いをしたところ、2ヶ月で約8000本のメガネフレームが全国から届けられました。そんな中、被災地に近しいところに住む私たちができる支援は、継続的で息の長い、被災者のみなさんの顔の見える支援だと思えます。『メガネの松田』では、これからの三陸の復興のため、メガネ店だからこそできる何らかの支援を模索し、続けていきたいと思っています。こうして多くの方々が三陸に思いを寄せ、三陸は必ず美しい景色と活気に溢れた人々の暮らしを取り戻すことができる、と信じています!それまでいっしょにがんばりましょう。

『メガネの松田』代表取締役社長 松田陽二

| メガネボランティアの記録 | |
|--------------|---|
| 第1回 | 3/18(金) [陸前高田市]長部公民館・長円寺・高田一中 |
| 第2回 | 3/28(月) [大船渡]中央公民館(臨時町役場)・大船渡高校 |
| 第3回 | 4/1(金) [大船渡]中央公民館・大船渡高校・寺野弓道場 |
| 第4回 | 4/5(火)・6(水) [陸前高田市]長部公民館・双六公民館・要谷公民館・広田小学校・慈恩寺 [大船渡市]北小学校 |
| 第5回 | 4/13(水) [山田町]大沢小学校・北小学校・山田高校 |
| 第6回 | 4/19(火) [雫石町二次避難所]雫石プリンスホテル・ホテル長栄館・加賀助・ホテル森の風 |
| 第7回 | 4/27(水) [盛岡市二次避難所]愛真館 [花巻市二次避難所]ホテル花巻 |
| 第8回 | 5/10(火) [八幡平市二次避難所]ホテル安比グランド |
| 第9回 | 5/26(木) [野田村]仮設住宅敷地内 |

ている人もいました。次のボランティアでは、コンタクトやメガネのケースを大量に持ち込む必要を感じました。